

グラフビット

取扱説明書及び整備要項書

GB- 800

GB-1000

GB-1200

GB-1300

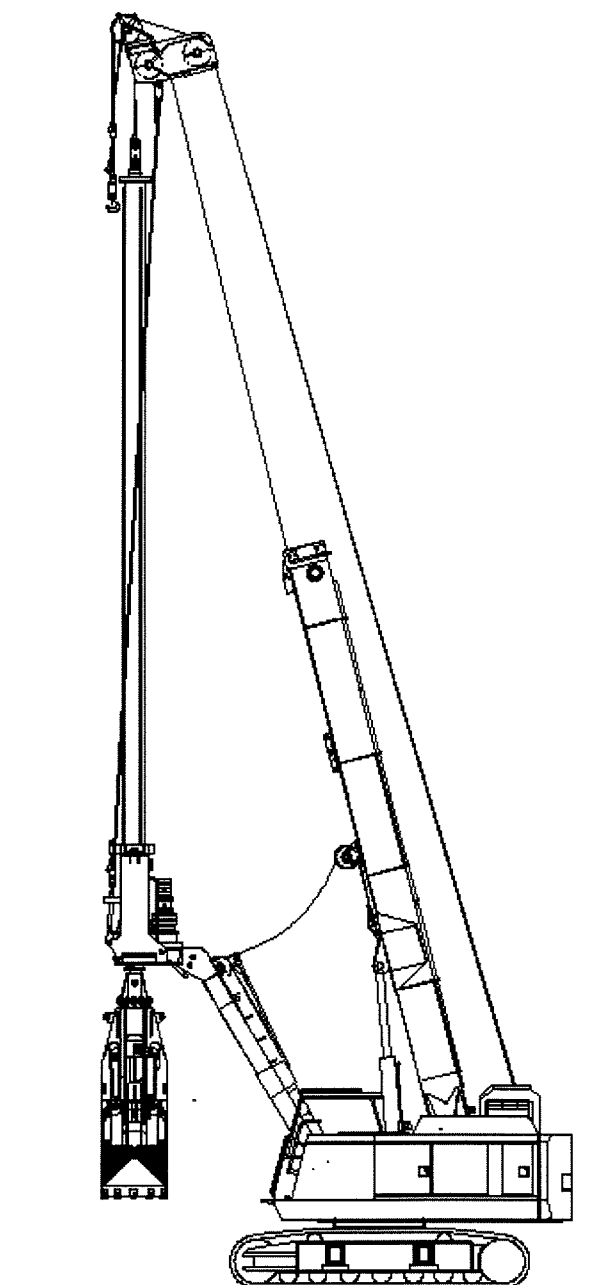
GB-1400

GB-1600

GB-1800

各 型 式 共 通 事 項

ペンタ建機リース(株)



目 次

はじめに

1、使用法

2、仕様

3、アダプター(ケリーBOX)仕様

4、使用前点検

5、使用中の注意事項

6、整備手順

7、油注入法

8-1、最終調整(開>閉の時)

8-2、最終調整(開<閉の時)

9、油圧回路図

各型式組図

はじめに

- 1、本製品は作動油内部循環方式により外部からの油圧原を必要とせず地中障害物を掘削、撤去を一括して行うことの出来る機械です。
- 2、本体側面には油圧ホースが接続されています。本体外形寸法内に収めていますが、障害物の中に鉄筋等が在りますとホースに引っかかり破損する場合がありますので注意してください。
- 3、油圧ホース、継手等が破損した場合ホース等の交換だけでは正常に作動しません。
至急弊社に連絡してください。
- 4、先端ビットが破損した状態で使用しますと本体ケーシング部が異常磨耗を起こす恐れがあります、早めに交換して使用してください。
- 5、内部に混入の石、泥等有ると正常に機能しない場合があります。
小まめに取り除いて使用してください。

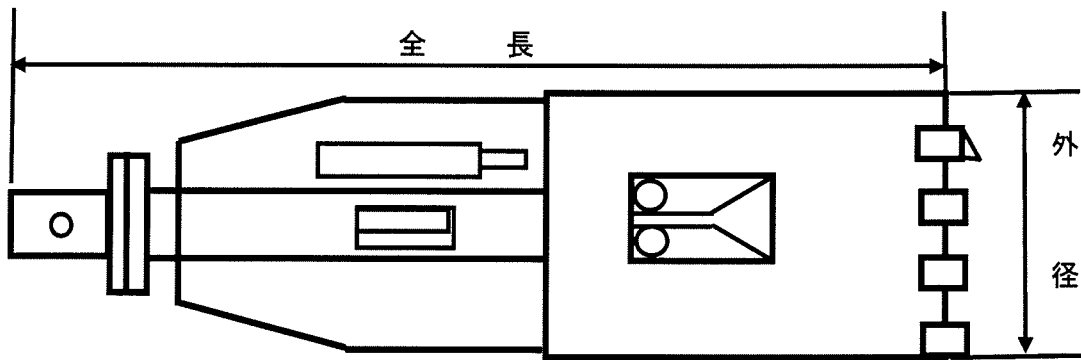
1、使用法

- 1、本体ケリーBOXにケリーバーを確実に差込み、ケリーピンで確実に固定し、
がた等の確認を行ってください。
- 2、掘削を開始する前に地上にてクラッチをはずしケリーバーを巻き上げ、
シエルの開閉の確認を行って下さい。
- 3、杭穴に本体を下ろし掘削を開始するときは右回転のみで使用して下さい。
※シエルが全開の位置での左回転は機器が破損します。絶対に行わないで下さい。
- 4、シエルを閉じる時は左に45度回転しケリーバーをゆっくり巻き上げてください。
※早く巻き上げるとシエルが締まるより先に本体が上昇してしまい掘削土が掴みきれません。
上記2の作業時に巻き上げ速度の確認を行ってください。
- 5、本体を巻き上げ地上にて廃土を行った後クラッチを確実に掛けて作業を継続してください。

2、仕様

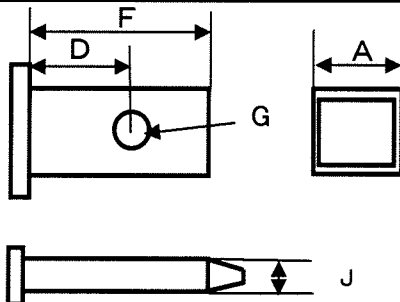
型式(製番)	最大外径	全長		掘削土量(m ³)	重量(t)
		最縮小時(mm)	最伸長時(mm)		
GB-800(1-2)	Φ800	3429(G)	4137(G)	0,14	2,8
GB-800(3-8)	Φ800	3179(G)	3681(G)	0,14	2,8
GB-1000(1-7)	Φ1000	3424(G)	4211(G)	0,34	3,2
GB-1000(8-9)	Φ1000	2929(G)	3716(G)	0,34	3,5
GB-1200(1-5)	Φ1200	3554(G)	4471(G)	0,52	3,5
GB-1300(6)	Φ1300	3273(G)	3723(G)	0,63	3,8
GB-1400(1-6)	Φ1400	3821(G)	4790(G)	0,9	4,2
GB-1600(1-2)	Φ1600	3921(G)	4899(G)	1,18	5,2
GB-1800(1)	Φ1800	4221(G)	4900(G)	1,45	6,0

※全長はアダプター(G)105角取付時の寸法です



3、アダプター(ケリーBOX)仕様

差込呼び径	記号	J	A	D	F	G	F-D
130角	A AⅡ	40	130	175	305	42	130
150角	C CⅡ	50	150	175	305	52	130
105角	G GⅡ	37	102	120	240	40	120
140角	H HⅡ	47	140	120	240	50	120
160角	I IⅡ	57	160	170	320	60	150
200角	L LⅡ	59	200	290	480	62	190



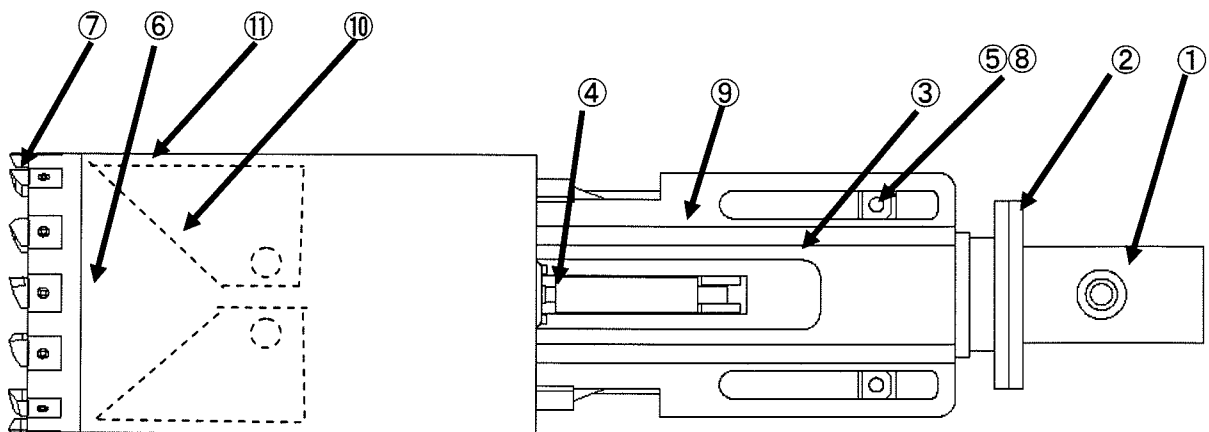
4、使用前点検

1-1、本体

- ①アダプターケリーBOX及びケリーピン取付穴の破損、変形等の確認。
- ②アダプター取付ボルトの破損、変形、ゆるみ等の確認。
- ③目視にて油圧ホース、継手類の破損、変形、ゆるみ、油漏れの確認。
- ④目視にてシリンダーの油漏れ等の確認。
- ⑤各ピン、シャフト類の脱落破損の確認。
- ⑥先端ケーシング部、シェル部の変形、磨耗の確認。
- ⑦ケーシングビットの脱落、破損、変形の確認。
- ⑧各ピンシャフト部分へのグリスアップ

1-2本体(アースドリル接続後)

- ⑨クラッチ部の変形、磨耗、架かり具合の確認。
- ⑩クラッチOFFにてケリーバーを巻き上げてのシェルのしまりの確認。
- ⑪先端ケーシング部とシェル部の間に残土等が無い確認。



5、使用中の注意事項

1、障害撤去時(クラッチがかかりシェルが開いた状態)は必ず右回転にて使用してください。

※シェルを開けていない状態で左回転をするとクラッチ部分が破損しますので絶対に行わないでください。

2、クラッチを切ってケリーバーを上げてシェルを閉めた状態のときは必ず左回転で使用してください。

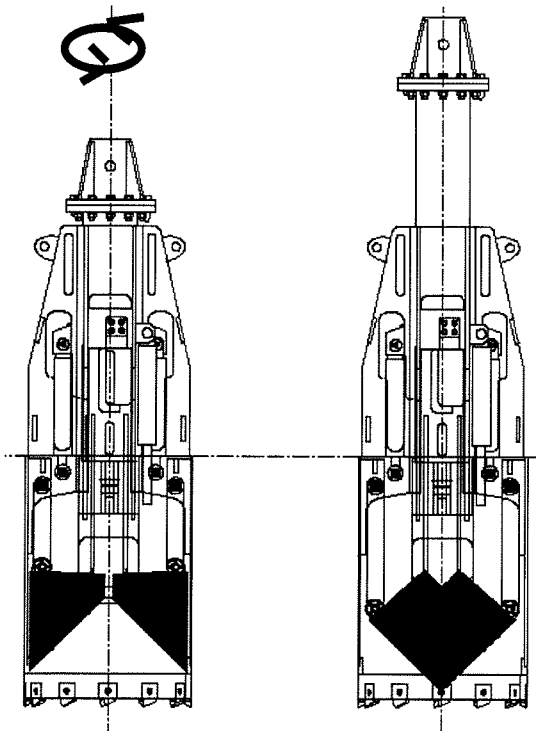
※シェルを閉めた状態で右回転をするとクラッチ部分でインナーパイプが破損しますので絶対に行わないでください。

3、排土時は内部の残土を確実に排土して機器内部に土が残らないようにしてください。

4、排土後はクラッチが確実にかかっているのを確認して作業を行ってください。

5、回転トルクは10t/m以上はかけないでください。機器が破損する恐れがあります。

6、整備手順



1、外観にてフレーム、シェル、ケーシング、先端ビット等の破損の確認。

2、アダプターの変形破損の有無の確認。

3、油圧ホース、の破損の確認。

4、油漏れの確認。

5、クラッチを切って(左回転)インナーパイプをゆっくり引き上げシェルの開閉の確認。

6、同時に各シリンダーの動作確認。

7、内部の泥、石等の混入の確認。

8、油圧回路内部への水、泥等の混入の確認。

※油圧ホース等の破損及び継手等からの油漏時、内部に混入の可能性があるので再注入を行う。

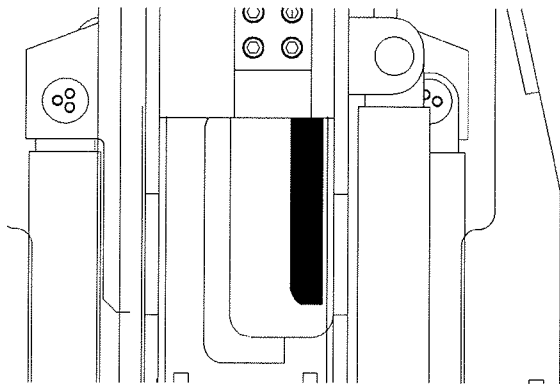
グラブビット油注入法

工程	1番バルブ	2番	3番	4番	5番	油注入口	2箇所の接続口にホースつなぐ				備考
							メインシリンダー	シェルシリンダー	補助シリンダー		
1	X	X	X	X	○	キヤッツアはずす					
2	○	○	○	○	X	1-4バルブ側	縮み	伸び	縮み	縮み	シリンダー。ホース。内のエア抜きは5～8回程度繰り返す
						2-3	伸び	縮み (閉)	伸び	伸び	
3	○	○	○	○	X	2-3	伸び	縮み (閉)	伸び	極力低い圧力で油を注入	
4	○	○	X	X	X	1-4	縮み	縮み (閉)	伸び	//	
5	X	○	X	○	X	1-4	縮み	縮み (閉)	縮み方向	片側のシリンダー約50mm縮むようにする	
6	X	X	X	X	○	油注入終了	5番バルブを開くとき圧力のバランスをよめる為シリンダーが少し動く場合があります 支障ありません。				
7	X	X	X	X	○	キヤッツアつける	ホースはずす				
○ 開き		○		○		開き		閉じ			
X 閉じ		X		X		閉じ		閉じ			

7、油注入法

※油圧回路内部への水、泥等の混入の可能性が高い場合は上記2の工程を数回繰り返す。

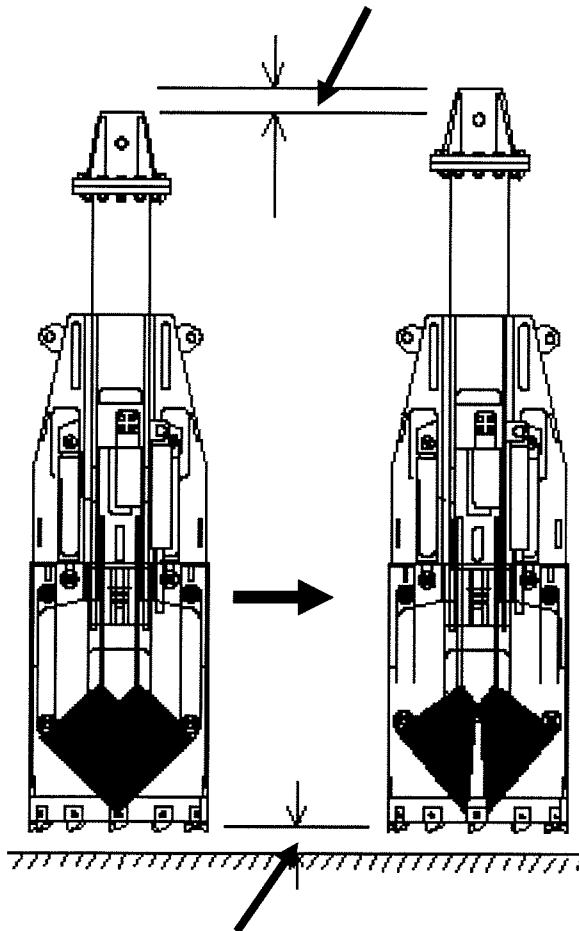
8-1、最終調整(開>閉の時)



- ・本体を立てて開閉テストを行った後シェルが全開なのにメインシリンダーがクラッチの掛かる位置まで下がり切らない時は本体を立てたままバルブの1~4を順番に開放していくとメインシリンダーがゆっくり下降するのでクラッチの掛かる位置まで下がったらバルブの1~4を確実に閉めの位置にしクラッチを掛ける。

8-2、最終調整(開<閉の時)

※シェルが開ききらずメインシリンダーのみ伸びきる。



約10cm浮かす。

- ・本体を立てて開閉テストを行った後メインシリンダーが上がりきっているのにシェルが閉まりきらない時は本体を立てかつGLより約10cmほど浮かしたままバルブの1~4を順番に開放していくとメインシリンダーがゆっくり伸び本体が接地するまで下降させバルブ1~4を確実に閉めてからメインシリンダーを縮めシェルの開きを確認し足りない場合は上記作業を繰り返す。行き過ぎた場合は前項7-1の作業を行う。

9、油压回路图

制式—()	
制式—()	

